

希望21

希望の21世紀

平和・自治・共生

People's Hope for 21 century
Democracy & Alternatives

1996年 9月号
NO. 12

1部 200円
定期購読 年間3000円

〒228 神奈川県相模原市上鶴間2973-3-110
TEL/FAX 0427-40-4794
郵便振替：00100-1-97125 希望21



ありふれたことだけど
かけがえのない
希望がここにある

平和と人々の暮らしを守る勢力の議席拡大を！

◆人々とともに「平和」をつくる議席の伸長を！

解散、総選挙、10月20日投票日ということになりました。「行革」選挙だと各党とも大差のない行革案を出していますが、政党が「争点」として提起したいことがすなわち人々にとっての争点ではありません。争点を提起し、判断するのは私たち自身です。

国政に今、必要なのは、選挙後に想定される改憲勢力と対峙しうる「平和」勢力の議席確保だと私たちは考えます。「平和・自治・共生」にてらして、現在、大きな「争点」はまず「平和」をどうつくっていくのか、ということについての日本の進路です。

自民党は「沖縄問題の解決」をPRしようとしています。米軍が、沖縄のたたかいは新たに始まっています。米軍が

極東最大の基地嘉手納を失うことは、アジアの緊張を緩和し、国連安保理の合意を得られずとも自国利益優先でイラクを攻撃し、冷戦後の世界をグローバルに軍事的な力を維持・確立しようとする米国の軍事戦略を揺るがすものとなります。

9月19日、ワシントンで行われた日米の外務、防衛閣僚による日米安保協議委員会（2プラス2）は、「日本周辺有事」に関して、民生用の空港、港湾を含む米軍への施設提供など、具体的な対米協力について、来年秋までに「本格的な日米防衛協力のあり方」を検討することを決めるといふ、「日米防衛協力のための指針」（ガイドライン）の見直しに関する「防衛協力小委員会」の中間報告を了承しました。そして、9月20日、梶山官房長官は、「有事法制を整備するならむしろ社民党とより

も新進の方が近い」と言い、行政改革や有事法制整備などの課題ごとに「部分連合」で対処する方式を提唱しています。

永田町のスクランブル状態の脇で、人々とかけ離れたところで議論もないまま、米国のグローバルな軍事戦略との共同が、実務レベルで決定され進行しているのです。

沖縄の住民投票にあらわれた住民の意志や、「土地は本来平和のために使用されるものだ」という新川沖縄市長の思いにつながるものとして、私たちは平和と自治を主張します。そして、世界の人々の一部としての日本に住む私たちの平和の創造に逆行し、実質的な改憲状態を進行させる、実質的な安保の拡大と米国との軍事協力の進行をはばむ政治勢力の国会での議席拡大をめざします。

平和なくしては沖縄であれ、日本であれ、アジアであれ、そして世界の人々はほんとうに「共生」を実現できません。世界の平和なくして日本に住む私たちだけの平和というのはないでしょう。そしてその平和は、人々の思いを実現する自治によって獲得されるものとしてあります。

◆「共生」社会の実現へ向けて

「共生」という観点から、自民、新進、民主党各党とも推進の立場をとっている「規制緩和」にも異議があります。世界大に広がる資本のグローバル化の下で、米国とその資本のイニシアティブで進められている世界単一市場への再編の流れの一部として、現在の「規制緩和」の大合唱はあります。それは強者＝大企業しか生き残れない市場システムへの再編としてあり、弱い者から順に仕事を奪っていくこととなります。あくまで「人々を守る」視点から、必要な規制とそうでないものを論じるべきと考えます。

人々の暮らしという観点からは当然、消費税の5%への引き上げは憤懣やるかたないものです。だから選挙で不利だということで、与党自民党は無責任にも、戦術として凍結をいう候補者もいていいじゃないかというのです。一方、政府税制調査会の加藤寛会長は所得税・法人税を半分にすると消費税率は18%が必要だといっています。中曽根氏に至っては「できるだけ生活や教育の面倒を見ることが衝撃を緩和することだ」と選挙の手練手管を説き、消費税については弾力的な対応をしるというのだから、(9月23日付毎日新聞)、選挙民をバカにした話です。新進党はいちはやく「今世紀中は3%据え置き」と公約化していますが、昨年12月の党首選挙で小沢氏の公約は「10年後に10%」です。

党利党略の選挙戦術の具になっている消費税問題ですが、収入の少ない人ほど税負担の重みが増す消費税増税は共生の論理に反するものであり、人々の暮らしに依拠してこれを阻止する勢力の伸張を支持します。

◆人々の力を大きなものにするために

狛江市長選や足立区長選をはじめこの間の共産党の得票の伸びは、消費税5%への引き上げ阻止、沖縄米軍基地の無条件撤去、浪費を削り国民生活を圧迫しない財政再建計画など、人々の暮らしに依拠した主張がはっきり見えるからです。

また、この間、足立、狛江の選挙で共産党と選挙協力をして、人々の思いに応えうる「統一」をはかってきた新社会党の実践は人々の期待に応えるものであり、少数ながらその主張は人々に依拠したものであると考えます。新社会党委員長の矢田部氏は、この統一の根拠について次のように述べています。

「政策課題ではかなり共通の部分があると思います。自衛隊や安保条約に反対することや、消費税や住専に予算をつぎ込むには賛成できないというようなことです。もちろん政党としては----かなりの違いはありますが、あまりここで違いを強調することがいいとは思いません。いま違いを言い立てるよりも、----護憲か改憲かという大きな政治選択を、国民に問う政治決戦として総選挙を考えなければいけない----」(週刊「金曜日」8月24日号)

さらには、「民主党」結成により、さきがけとの丸ごと新党移行が果たせなかった社民党は、かつて社会党を右旋回させた主要勢力が、次々に民主党に移っていかで、土井たか子氏の復党・党首復帰を要請しましたが、土井氏が復党の条件として提示した「消費税は白紙から議論し直す」「海外での武力行使はしない。基地は縮小する」「企業団体献金を即時廃止する」などの5項目を受け入れた社民党が、これらを軸として転換を明確にするのであれば、実質的な改憲を進めようとする勢力に対峙し、平和を志向する反改憲勢力の伸長を実現するという観点から、支持できるものになりうるでしょう。その場合、それは、与党としてこれまでの政治決定に責任をもっており、消費税5%を決めた社民党の久保蔵相であるのだということの責任を引き受けた転換として、人々から見えてしっかり理解できるに足る大胆なものでなければならぬと同時に、である以上、新社会党などとの共同が可能なはずで

共産党、新社会党、転換を明確にした社民党が、できるだけ一つの力としてまとまりを作っていくことが、人々の期待と希望です。国の役割を人々を守るものとして規定し、省庁、政治家、資本の利害で動く政治から、人々のために、人々が決めることのできる政治にしていくことをめざして、人々の思いと力を一つの、より大きな力にしていくように、今こそ、連帯と共同が必要です。そして、今後につながる地方選挙で地域から、住民自治の実態をつくりあげていくことにつなげていかねばなりません。力の統一をめざして、希望は各地で選挙戦にのぞみます。

沖縄と三多摩を結ぶ運動の現状

発展の糸口～自治と統一戦線の視点と動き

三浦富喜夫(希望21・三多摩)

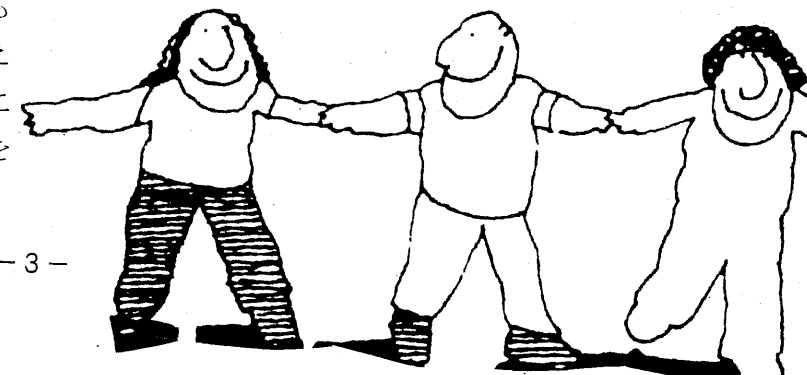
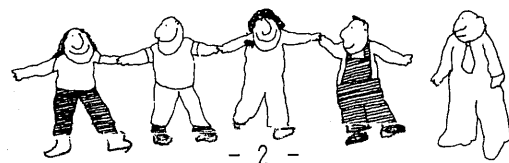
自衛隊基地をコースとする基地めぐりを企画した。

上映会には、日の出町のゴミ処分場に反対する住民運動の人々も参加した。日の出町の住民運動と沖縄の住民運動を結び付けるもの、それは住民自治ということであろう。「いやなものに他に押し付けない政治」を創りたい、「自分たちのことは自分たちで決める」という民主主義の根本原理を打ち立てたい、その為に砂川闘争と沖縄の人々の闘いに学びたい、そんな思いで『流血の砂川』を見入った日の出町の人々。住民自治をもとめることを媒介としてゴミ問題の日の出町の住民と基地問題の沖縄の住民が共通の運動の方向性を見いだしつつあることの意義は計り知れない。

9月7日の基地めぐりの企画には、大型バス1台をチャーターして、50名限定の募集に対して、70名を越える申し込みが殺到(他、問い合わせ多数)。参加者は、市民の会のメンバーで基地を見たことがない人が約1/3、それ以外の2/3の参加者はほとんど運動への係わりの無い人々だった。年齢も20代前半から満州に駆り出されて戦争を体験した人(80代)まで幅広いものとなった。参加者には全員アンケートに協力して戴いたが、それによると、多くの人が「この企画に参加して、沖縄の思いが体験を通じて理解できた」と答えている。推測の域で失礼だが、運動に係わりのなかった参加者は、『沖縄の人々はいかにかわいそうだ。私も同情するから頑張てね』という思いだったと考えられるが、基地周辺の住民の生々しい基地被害の話と軍用機が放つ耳を突き裂く爆音に触れ、『沖縄への同情』が単に同情するだけでは、問題の解決に繋がらないということを知る一つの契機になったように思う。企画した側にとっては、同情から痛みを分かち合う運動にしていくことが今後問われることになるだろう。そして、基地巡りをはじめとしてこの1年間の取り組みを通じての実感は、沖縄からの発信が、予想を上回って人々の間に共感をもって受け止められていることである。そうした人々の共感を三多摩で“町ぐるみ”の闘いへと押し上げていくには、押し付け型の運動では無い運動(住民と共に考え行動し、共に変わりあっていける運動)と住民に共感をもって受け止められる運動をどう組織し、多少の違いを乗り越えて、統一戦線をどう拡大していくかにかかっている。これは、これまで運動に関わってこなかった人々と共に、基地と安保を考えてみるという実践に得た教訓である。

沖縄問題をめぐる状況と運動を担う人々の中からの機運と呼びかけ主体があつてのことだが、『沖縄反戦地主を支える三多摩の会』という運動体が7月に発足した事も報告に加えたい。この通称『支える会』は、一坪反戦地主会関東ブロックの呼びかけに応じて、『うちなんちゅの怒りと共に！三多摩市民の会』、労働組合(正確には労組活動家)と市民が一緒になって運動をしてきた『沖縄の怒りと共に！八王子市民の会』などの市民運動の数団体、それに、自治労内の各市職労や八王子勤労者市民センター(旧八王子地区労)などの労働団体が参加する形でできた組織である。詳しくは触れないが、ここに参加するそれぞれの団体は、運動の歴史の違いを背負っている。とくに市民運動は、この間の労働戦線の再編と政界再編の過程で、連合傘下の労働組合との共闘が困難な状況が続いていた。そういう意味では、『支える会』の発足は画期的と言っても良い。労働団体の中でも、基地・安保・自衛隊といった国策、日本の進路をめぐって、上からの官僚統制に対して、下からの地殻変動が着実に起こっている。こうした地殻変動と人々の運動の統一が持続し発展すれば、現在総与党化として進行している永田町主導の政界再編ではなく、人々の下からの政治の作り替え、つまり、人々の暮らしを守るための本来の政治に一步近づけることができる、そんな予感を感じる。

今年10月には、解散総選挙もほぼ決定的のようだ。そしてその直前には『民主党』の結成が現実のものとなり、政界再編第2幕の本格的スタートだ。前回の参院選で護憲派・市民派の分裂をまねいたことの教訓に学び、約1年間の沖縄・安保問題での運動の蓄積が、この総選挙をめぐって分裂することのないように進めて行きたい。だからといってその危険性を恐れて選挙戦から逃避するつもりは無い。沖縄の発信は全国政治の変革そのものなのだから。誤りを恐れず、人々の運動がより有利に展開できるような選挙への関わりを全国各地で実践しよう。沖縄の人々の闘いと全国の闘いが、この秋にまた一つ前進し、実りの秋とするために！



希望西から東から

犬も歩けば希望にあたる!



焼却・埋立てのゴミ行政の転換を! ~日の出森と井草森を貫くライン

菅原和之(未来はみんなでつくり隊)

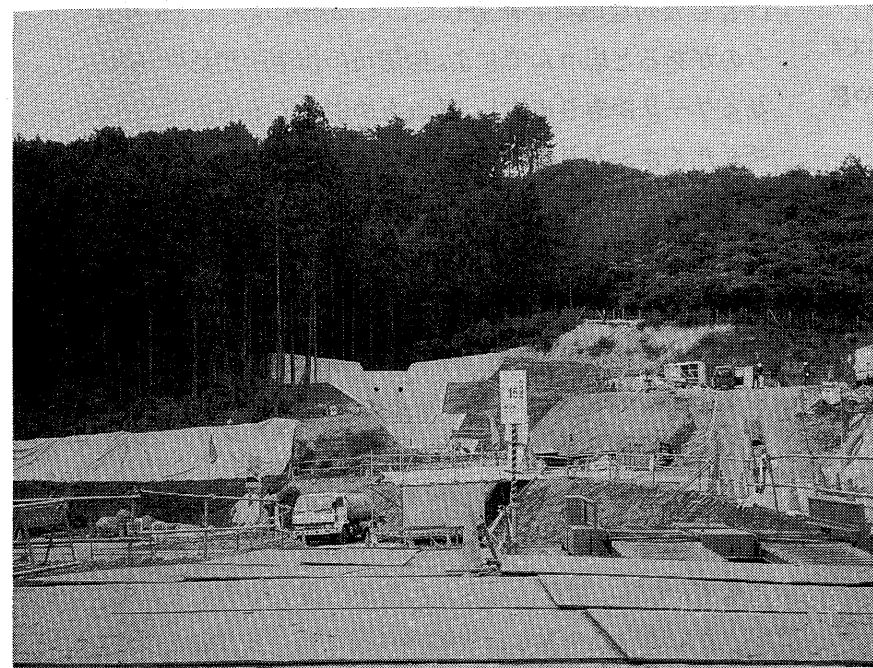
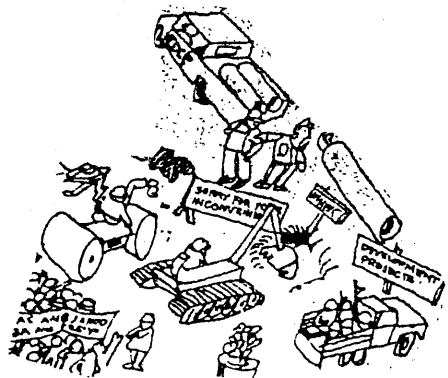
先月号の編集後記でも触れましたが、日ノ出町の第2ゴミ最終処分場の工事がどんどん進んでいます。困ります。情報公開の判決にも従わず、住民の反対も押し切って、工事を進める処分組合は、今度は、反対している住民が所有しているトラスト地の周りにフェンスを張って、トラスト地からの人の出入りをさせないようにしようとしています。住民側と処分組合が、折衝の同じテーブルについた矢先の9月第2週のこと、まったくの抜打ちのことだったので、住民の人たちもみんなとても怒っています。そのときはなんとかフェンスの工事は途中で止めさせたのですが、処分組合側はどうしてもフェンスを完成させたい意向のようで、折衝の中でもそう申し入れてきたそうです。住民側としては、それは受け入れられないと回答したわけですが、またいつ強行してくるかわからない状態です。

そんなわけで、私もほんの少しでも関わればと思い、短い時間ですが、2回ほどトラスト地に足を運びました。JR青梅の駅からバスで10分ほど行き、そこから徒歩で30分ほど行くのですがその道程は、街中で暮らすものにとっては別天地で、森林浴よろしくとてもいい気分です。オニヤンマとかギンヤンマとかもいて、運がよければとても綺麗な青緑の羽根を持つカワセミにも逢えます。けれども30分ほど歩いていきつく場所は、木を切られ裸にされ切り崩された山の残骸のような工事現場です。先週行ったときより、今週いくともっと山は崩されています。住民の人たちがつくったさやかなバリケードから工事を眺めていると、瞬間にメキメキと音を立てながら木が何本も切り倒されていきます。工事をしているおじさんの中に東北系の訛りがあるように聞こえました。もしかすると農家で食べていかれなくて、こんな所にまで働きに来なければならなかったのかもしれないと勝手に想像して矛盾を感じていました。もしこの土地がこの最終処分場になったら、オニヤンマもギンヤンマも頭の上を旋回しているトンビも小川のヤマメもいなくなってしまうかもしれません。谷古沢処分場(第1処分場)の近くの川には、折れ曲がって変形したヤ

ママが多いと聞きます。

ところで私の暮らす杉並には、井草ゴミ中継所という施設があります。区内で集められた分別ゴミを最終処分場に運ぶ前に小さく圧縮する施設です。周りはきれいな公園になりましたが、中継所が運定を開始した今年の4月以来周辺住民の中に息が苦しい、目が痛い、肌がかぶれるといった健康被害を訴える人が相次ぎました。そこで都と区が調査してみると下水からシアンなどの有害物質が微量ながら検出されました。住民側は継続した調査と周辺世帯の一括健康診断、中継所の運転停止などを求めています。費用がかかりすぎるなどの理由で行政はその要請にまだ応じてはいません。7月に結成された地域の市民グループ「すぎなmix」では、9/23に中継所の見学と被害にあわれた方々との話し合いを行いました。被害にあわれた方は本当に深刻で、中継所周辺から引越さざるを得なかった方もいます。中継所では、当たり前ですが本当にいろんなものを一遍に圧縮していました。中には「まぜるな危険」のものがたくさん混ざってしまっているでしょう。

そもそも焼却・埋め立てのゴミ行政全体を根本から見直さなければならぬ時期にきていますよね。東村山では市民・自治体・企業が共同して90%の再利用率を目標にリサイクルシステムづくりを始めたそうです。ゴミの問題も自治と民主主義の徹底を通して解決したいものですね。



わからないなら 聞いてやれ!

政界の流動化の中で、新しい政党名が次々でてくるわ、「こういう政党だったはず」という理念がどうなっちゃっているのか、選挙民からは非常にわかりにくい。今度の衆院選でも、どこの政党が何を主張し、どこが違うのか、もやもやしている。だったら、聞いてみたらいいんじゃない? と、すべての候補者を招いてこちらから質問を浴びせてみよう、という「市民の質問中心の立ち会い演説会」を企画しました。

何かやろうとするといろいろ勉強になるものです。公職選挙法により、選挙期間中は候補者及びその政党以外は選挙運動ができないということを、初めて知った。「特定の候補者を応援する集会ではないとしても、候補者が来て政策を述べるのだから選挙運動とみなされるだろう」というのが選挙管理委員会の話です。結局、各候補者の個人演説会の合同開催という形で進めています。

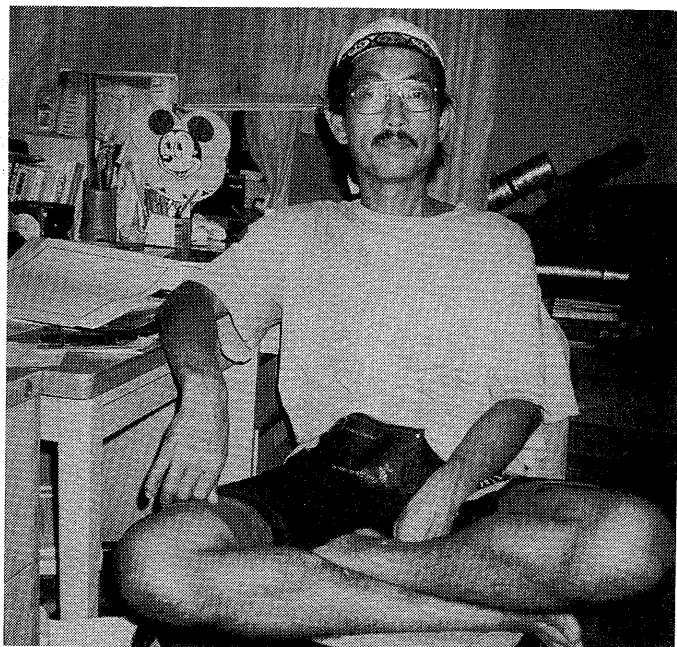
また、公共施設で開催する個人演説会の場合、二日前までに選挙管理委員会に届けを出さねばならず、結果的に公示日とその翌日は開催できないことになります。これは、選挙が各公共施設に通知するためという理由ですが、実際その施設に対する予約自体は候補者が事前に予約して部屋をとるのですが。

結局一〇月九日に予定していたのを一日にずらして開催しますが、人を見て、政策を聞くことで、市民が判断を作っていけるようなものにしていきたいと考えています。ここで出会った人たちと、今後の動きを共に生きていけるような出会いが生まれることも期待して。

(未来はみんなでつくり隊・篠崎史範)

いまこの人に聞きたい！

大久保泰明さん



大阪府の門真市で心身障害者の作業所「つどいの家」の指導員をしておられます。「つどいの家」設立当初から関わって、15年間地域の中にしっかり根付いた活動をされています。現在、「つどいの家」は無認可の作業所ですが、来年には行政が「つどいの家」に替わる認可施設を新設するというので、認可と無認可の違いや「つどいの家」の今後についてお話を伺いました。また、大久保さんは今年で47才ですが、いわゆる団塊の世代の一人として運動との関わりや思いを語っていただきました。

(インタビュー・まとめ 井本万里子)

*作業所の指導員になったきっかけは？

障害者と関わるようになったのは、特別の契機とかはないんです。けれども、ある時に自分がどういう風に生きていこうか、どこに自分の身を置くかと考えたときに、今さらサラリーマンでもないなと思ったんです。それやったら福祉関係かなど。僕は団塊の世代ですので大なり小なり社会運動に関わってきたんですが、やっぱり弱者に立った視点というのがありますやん。障害のある人とかお年寄りとかの側におった方が、自分の生き方がわかりやすいんじゃないかなというのが漠然とあったんです。それで30歳から3年間、大阪府立の老人ホームの指導員をしていました。その後、門真で作業所をつくるということで「つどいの家」の指導員になったのが1982年のことです。

*来年、認可の作業所ができたなら「つどいの家」はどうなるんですか？

「つどいの家」はもともと親の会が中心となって、門真市と交渉して土地や建物を市から借りる形をとっています。また、市の職員を指導員として派遣を受けています。それは、「つどいの家」が設立されたときからそうなんで

す。でも行政にとっては「つどいの家」みたいな無認可やけども公的な職員を派遣している形態をなくしたいというのがあると思うんですよ。無認可の作業所が認可施設になるケースがありますし、それをめざしてる無認可の作業所もたくさんあります。つどいの家が認可施設を目ざさなかったのは居心地の良さもあるんです。このままで何も都合の悪いことはない、認可してもらわなくてもいいということです。それとは別に認可施設は作ってほしいというのはありましたけれども。「つどいの家」と「第二つどいの家」は認可施設設立と同時に発展的に解消ということになっているんです。

認可施設ができたならどう変わるかという、まあ建物は新しくなって多少は広くはなりますね。何人かの定員はふえます。それと現在は親の人たちが当番をやってるんですが、ええ悪いじゃなしに当番の負担は減りますね。後はどうなるかというたら、職員の待遇が保障されるだけで、来てる人には特にメリットもないんですよ。以前、指導員の研修会のなかで、認可と無認可のことを話したことがあるんですが、結論としては認可になってメリットがあるのは職員の待遇だけやということなんです。それも大きいことなんですけどね。僕らが来たころはやはりちょっと変な人が多かったですよ。普通の会社勤めはつとまらんとかね。話がずれますが、ここ数年はやっこの業界にも普通の人が多くなりました。自分の生活の価値観にバランスを持っている人が多くなってきましたね。今はボランティアを積極的に受け入れてますが、変わった人はへりましたね。

認可施設ができるのは来年の予定なんですけども、どのような形になるかはわかりません。認可施設でも運用次第では障害者や親の人たちが自由に利用できることもあ

ると思うんです。現在では行政側が利用当事者(障害者およびその家族)の話を聞いている様子はありませんね。話を聞いたらややこしくなるというのがむこうの理由らしいんですけど。今の「つどいの家」の建物について市は「市の別館」にしたいとか言ってますけど、僕らとしたら何とか障害者が利用できる形で残せたらいいなと思ってます。

*団塊の世代の一人として運動との関わりについて聞かせて下さい

僕らの世代は政治的なことに違和感なしに関心をもてた世代だと思います。だから高校の時に日の丸をあげる校長に反対したり、別にそんなん当たり前にやれてましたね。当時はデモも行こうと思ったらんばでも行けました。あちこちでやってるから。何かの集会に行けば次も又行けるし。大阪で一番最初に御堂筋を占拠したデモで一番先頭におったこともありました。

当時、どうい社会にしたらええかというのがありますやん。今考えたらおかしいかもしれんけど、やっぱり共産主義というか物はみんなで共有して平等に分配する社会がええんちゃうかと思ってました。ベトナム戦争にしてもアメリカだけでなく日本帝国主義が東南アジアを侵略しているという認識でした。だから絶対阻止せなあかんと思ってたし、それだけじゃなくて今の日帝を打倒してその後の社会主義政府を樹立せなあかんと思ってました。当時、みんなただ単に石投げたりしてただけじゃなくて目的はそこにありましたから。

社会主義国家をつくるためには今の国家を倒さなあかん和本気で考えてたんですが、何か変やなと思うことが出てくるんですね。例えばそう言いながら狭いところに集まって石の投げ合いしたりね、組合も「労働組合は革命の学校である」とか言って要求闘争しかしなかったりね。僕らの世代は純粋培養で上の世代から言われてるわけですよ。「労働組合で権力と闘って労働者階級が中心となる政府をつくるんや」とね。僕らは「そうや!」と思って「給料なんぼに上げろということだけやなしに、組合から経営陣に労働者を送りこんで経営に参加させろ」と言うたら(組合の指導者から)「そんなんしたら会社がつぶれてしまうで」と言われてしまうんです。じゃあ何ができるんやと言

うと「お前は甘い」とか「世間知らずや」とか言われるんです。そこでやっぱり「これやったら無理なんやなあ」とわかりますやん。

運動のあり方にしても力がなかったら力を蓄えるとか人が足らんかったら人を集めるとか、そういう方法を取るの運動やと思いますけど、70年以前からそういう種類の運動はなかったですよ。例えばお互いにどっちがマイクを先に取りかとか、並んだだけでけんかになるとか。「お前けんかしてる場合か」というのは思いましたね。反戦とか平和とか言うてるもんが対立ばかりしてるんは変やと思うでしょ。やっぱり変ですよ。一番もりあがった68年ごろでも「何人集まった」とか「火炎瓶何本投げた」とか「うちの隊列がつっこんだ」とか、何かそんなんちがうんちやうかと思えますやん。だから、あれだけの盛り上がりは何であそこまで急速におちこんだか言うたら、僕なりに思うのは結局その場その場でやってきて何のためにやってるかというのが確認できてなかったんやろうね。やられたらやり返すとかそんなことが先行しすぎてて。

*これからどういう生き方をしていきたいと思えますか？

どう生きていくかっていうのは、今の仕事のベースにもなっているんですけども自分自身がやっぱりいろんな人の社会のつながりのなかで、今おるもんをすべて受け入れていけるような、そういう社会の一員でいたいと思うんです。その中には弱いもんも強いもんもおれば障害のある人もおるし、障害のある人を排除する社会は普通の人にも住みにくい社会やと思えますし。色んな人がおって当然の社会になっていけばいいなあというのはありますね。だから制度とか組織は必要かもしれませんが、もうええかという気もします。

あのころの運動が盛り上がったのはそのころの経済構造のなかで敵がはっきりしていたんでわかりやすかったと思うんです。今はそうじゃないでしょ。だからとりあえず、体に悪いもんは食べないようにしようとか、原発が爆発したら危ないで、とかそういう風なところで自分の生活を見直していくことから始めんとあかんのとちがうかと思ってるんです。それと、次の世代に恥ずかしくないような生き方をしていきたいですね。



編集後記

◆あれよという間に解散、総選挙ということになって、誰がどの党なんだか、どの党がどの政策なんだか、人びとにはますます見えないものになっていく。情報のディテイルは、大抵一部の人にしか伝わらないし、細々と新しくなる情報を持つことによって人々の判断や動きを作っていくかというところでもない。こういう時になるとやっぱり日頃の言行やお付き合い、ガンコなまでの一本気、みたいなところが輪郭をもつのであって、判かりにくい議論は人々のところまで届いていかない。こうした喧騒の中では思いきり大衆根性とずる賢さを発揮して、離合集散や選挙嵐の後で、何がどれだけマシになったりひどくなるのか、どさくさ紛れに切られる札は何か、それをくい止めるために今からのお買い得はこれだっというふうに、ちょっと先を見た動きの方がいい。現状は変幻するのだから、もともと違いを強調しても始まらないし(なんせ新進党が人びとを搾り取る消費税を凍結します!なんて言うのがCMでくり返されるのだから。やれやれ)、政策のその先の意図の所を判断して参加する動きにしたいと思うのだ。

●で、東京の「つくりたい」では、日々の忙しさをおいても、秋の温泉だあ!を「意図」として持ちながら、あらためて各党の政策を読み直し、「自分たちのめざす政策づくり合宿」をやることに決めました!

次号にはその報告を書けるかな。

希望の21世紀宣言

私たちは、現在のモノ中心の社会を、人間が人間らしく生きることのできる社会へとつくり変えていくことをめざします。

人間らしい社会—人と人が平等に、ともに助け合って、人間が自然の一部として本来の姿で生きることのできる社会—を実現することこそが、人々の希望です。私たちはそのために、あらゆる領域で民主主義を徹底し、民主主義をはばむものに対してたたかいます。

私たちは、世界に戦争と大国主義の不平等をもたらす憲法改悪を許しません。9条の理念の実態を日本からつくっていくことによって世界の平和と民主主義の実現に貢献していきます。国と国が対等平等の関係にあり、人間らしく生きることを豊かさの尺度に、人々のあり方を人々が決め、どこの誰もほんとうに武力を必要としない国際社会の実現こそが、平和の実現です。

私たちは、地域からの国の進路、世界の在り方を決定する政治的なる力をつくっていきます。そのために、私たちの意思、知恵や力を結集したがいの経験に学び合い、信頼を築き合いながら、自治の実現をめざします。何かに頼ることなく広範な人々とともに、変革の力をつくり、その統一を推進することを自らの役割とします。

世界の現実を変えること—それは私たち自身のありかた、運動の在り方を変えることなくしては実現できません。私たちは自らを変えあうなかで、現実を変革していきます。本音を出し合い、あらゆる困難をともに克服し、成功や喜びを、そして失敗や悲しみをも共有し、助け合ってたたかいの輪を広げ、そのなかに新しい社会を準備していきます。

人間らしい社会の実現をめざし、世界の平和と民主主義を求める人々とともに、希望の実現に向けて進みます。

1部 200円 定期購読をよろしくお願ひします!

年間購読料 3,000円(送料込み)

郵便振替:00100-1-97125『希望の21世紀』

月刊『希望の21世紀』●創刊12号●1996年9月30日●

発行●「希望の21世紀」全国委員会 編集●希望21・未来はみんなでつくり隊

連絡先 ●希望21・三多摩

東京都日野市多摩平6-20公住219-5 三浦方 TEL&FAX 0425-82-2407

●希望21・京都

京都府京都市中京区丸太町通柳馬場西入る鍵屋町75 東陽ビル3F 3COM 京都気付
TEL 075-212-2455 FAX 075-212-2456

●希望21・未来はみんなでつくり隊

東京都杉並区高円寺北3-22-8 大一市場208 菅原方

TEL 03-3310-4553 FAX 03-3223-0468

●希望21・神戸

兵庫県神戸市灘区森後町2-1-9 斎原ビル302 江口方 TEL&FAX 078-843-7626

●希望21・大島

東京都大島町元町字小清水273 尾形方 TEL 04992-2-4708

●希望21・大阪

大阪府守口市外島町6西1-1709 井本方 TEL&FAX 06-997-2062

**希望
21
century**